

令和4(2022)年6月19日

令和3(2021)年度事業報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

I 事業総括

本協会(JMSCA)は、わが国における登山界、スポーツクライミング界及び山岳スポーツ界の統轄に関する事業を行い、これを代表する団体として安全を第一に山岳環境と文化に配慮した登山、スポーツクライミング及び山岳スポーツの普及振興を図ることを活動の原点としている。

前年度の令和2(2020)年度は、年度当初から未曾有のCOVID-19の感染拡大に見舞われ、東京2020オリンピックの延期を筆頭に諸事業の延期・中止が相次ぎ、何もやれない、何もできないことが創立60周年の記念となる、余りにも悲しい1年であった。そして本年度、令和3(2021)年度も昨年同様、コロナ禍の影響により、日本のみならず世界の経済状況が停滞、年度後半にはロシアのウクライナ侵攻が拍車をかけた。こうした現況下において、本協会では、日本の登山及びスポーツクライミングのより一層の改革・発展を期し、「JMSCA中期経営計画2021-2025」(以下、「中期計画」という。)を策定した。この中期計画で掲げるVISION(理念)・MISSION(使命)・VALUES(価値)に基づき、加盟団体及び登山・スポーツクライミング関係者ととも、新時代に向けて「より高い頂」へと更に大きく成長発展する登山・スポーツクライミング界を築いていき、登山とスポーツクライミングの力で社会を元気にする社会貢献(人づくり・地域づくり・国づくり)を目指す、との目標を掲げた。しかし、中期計画は始まったばかりではあるが、目標にははるか遠いという事を実感させられている。

スポーツクライミングにおいて、令和3年度は、延期となった東京2020オリンピックの年であり、コロナ禍の中、無観客において開催された。本協会においては、男女各2名ずつ出場し、女子の部で野中生萌が銀メダル、野口啓代が銅メダルに輝いた。男子においては、檜崎智亜が4位、原田海が18位であった。目標としては金メダル獲得であったので成功とは言い難いとの意見もあったが、兎にも角にもオリンピック種目として初めて臨んだ大会においての結果としては悦ばしいものであった。選手は元より彼らを支えたコーチ・スタッフにも大いなる拍手を送りたい、さらにその人たちを支えた多くの関係者に感謝の気持ちを伝えたい。

今後については、東京オリンピックのレガシーとして、パリ2024オリンピックへの目標とマイルストーンを設定し、ユース世代の発掘・育成・強化を図るとともに、選手の心身の健康をサポートしていき、ジャパンカップ等の運営ノウハウをさらに向上させて、今後の各競技大会の価値拡大を図っていく。ジャパンツアー、クライミング体験会等を全国的に展開してスポーツクライミング愛好者の底辺拡大に拍車をかけたいものである。

選手強化とともに指導者、審判員、ルートセッター、競技スタッフ等の養成と資質の向上を図り、協会として国内の競技大会を発展させていく考えである。

一方、登山に関しては、山岳遭難事故を減らす事故防止対策が喫緊の課題である。

リーダー不在の遭難事故が絶えない。先ず、身近なリーダーを育成するために、「夏山リーダー制度」を積極的に全国展開し、より多くの夏山リーダー養成に努める目標を立てたが、コロナ禍で出足が遅れている。また、一昨年から呼びかけている“ストップ・ザ 1000 !!”の減遭難キャンペーンは、音声入りアニメ動画を用いて全国に展開し、減遭難運動を広く登山者に呼びかける予定であったが、コロナ禍で思うような拡散ができなかった。

このような中においても、道迷いを防ぐための看板設置など地道な作業が進んでいる。勿論地元の土地所有者との関係も上手に築いていく必要があり、一つ一つ障害を乗り越えていかななくてはならない。

遭難事故を起こさない自立した登山者の育成とともに衰退傾向にあるアルパインクライミングの振興を図り、海外登山の奨励やウインタークライマーズミート等を支援する事を掲げたが、残念ながら奨励金を出して推し進めている海外登山もコロナ禍に阻まれてしまった。

「美しい山、日本の未来へ」とのことで自然保護委員会の活動についても積極的に推し進める意向であったが、進んでいない。環境保全は地球温暖化阻止のために重要であり、今後の核の一つとしたい。SDGs(Sustainable Development Goals)については当初自然保護委員会に取り込もうとしたが、内容的にはもっと大きなものであり、部の枠を超えての推進委員会とした。活動は緒に就いたばかりであり、実体のある SDGs 推進委員会とする所存である。

子供たちを山に親しみさせ、登山の楽しみ、喜びを伝えなくてはならない。委託事業の「少年少女登山教室」を加盟団体と共に更に発展させるべく、考えているが、コロナの影響により今年度は全部で 15 件の申請であった。

山岳スキーについては、2026 年開催の冬季オリンピック(ミラノ・コルティナダンペッツォ開催)において種目として採用されることになった。1 つの NF として夏冬開催のオリンピック種目を持つ団体になった。本協会の丸会長は 20 年来の悲願が達成されたとのメッセージを出したが、対応には、過去の経験を十分生かして準備に邁進したい。スポーツクライミングと比べ選手層は驚くほど少ない。日本選手は今までも世界選手権には出場していたがイタリアのワールドカップを視察に行き、改めて世界との差を思い知らされた。山岳スキーのスポンサーを新規に募り、動き始めてはいるが、選手の開拓、資金の獲得、人材の確保、ロードマップの作成など山ほど仕事がある。

アイスクライミング競技は、まだまだ発展途上にあるが、UIAA は IOC にアプローチするための準備をしており、NF に対しても協力を呼び掛けている。呼応すべく専門委員を 1 名派遣する事に決定した。

倫理・AD 研修については、A 登録を行う為に受講が必要であり希望者は後を絶たない。日本選手権を経て世界大会を目指している選手が多く、講師が不足している。実施はコロナ禍のこともあり、オンラインで行って来たが、山岳スキーも入り、希望者はさらに増えると予想されることから、講師の数や研修会の回数を増やすことも考えなくてはならない。その場合のスタッフの確保も大事である。

本協会の「スポーツ団体ガバナンスコード」の適合性審査は、令和4年7月だが、自己説明及び公表は毎年対応を求められる。本年度もその要求が来ている。加盟団体も一般スポーツ団体ガバナンスコードに則った運営が求められており、一昨年度から始めている加盟団体の法人化支援と合わせて、より一層のサポートをしながら、加盟団体の組織・財政の強化を図りたい。

また、選手のみならず、役職員、指導者、審判員、ルートセッター等の倫理研修を継続的に行い、関係者が一丸となってガバナンスの強化に努める。

JMSCA とはどのような団体か各ステークホルダーをはじめ広く国民に向けて「JMSCA の価値観」を積極的にアピールし、情報発信する必要がある。広報委員会はコーポレートコミュニケーション委員会に改称した。心機一転を図るためである。これを機会にHP の改善、英文HP の開設などを図り、海外対応を整備する。また、SNS 等を利用してタイムリーな情報発信を行っていく。

II 組織運営及び財政基盤の確立について

本協会が実施する各事業の推進にあたっては、本協会内に設置した各専門委員会を中心に企画・立案し、必要に応じてワーキンググループ等の設置や調査を実施し、課題解決に向けた具体的な目標の設定や実施方法等について検討を行う。

また、事業評価システムを着実に実施し、体系的なPDCA サイクルを定着させ、そのスキームを本協会内や加盟団体等に浸透・定着するよう努める。

会員の状況は以下の通りである。(令和4年3月31日現在)

- ① 正会員 67名 (加盟団体48名、学識経験者19名)
- ② 賛助会員(団体) 9社
- ③ 賛助会員(個人) 96名 (入会2名、退会・逝去16名)

個人賛助会員100名を切ると税額控除団体から外れることになる。次回申請は4年後である。会員の確保に最大限努める所存である。

さらには、加盟団体をはじめとした関係団体・機関等の協力を得るとともに、日本スポーツ協会(JSP0)、日本オリンピック委員会(JOC)、日本ワールドゲームズ協会(JWG)等のスポーツ関係団体と必要に応じて連携・協力を図り、活動内容の広報を積極的に展開するため、報道機関とも連携を図る。

登山においては、国土交通省、環境省、文部科学省、スポーツ庁、国立登山研修所、国内山岳三団体(JWAF, JAC, JMGA)、全国山の日協議会等の関係省庁・機関・団体と連携を図り、安全登山と山岳自然保護の啓発に努める。

また、国際的には国際山岳連盟(UIAA)、国際スポーツクライミング連盟(IFSC)、国際山岳スキー連盟(ISMF)、アジア山岳連盟(UAAA)、アジア大陸協議会(ACC)等のIF、AFと緊密な連携を図り、国際人養成と並行して、引き続き役員を送り込むべくロビー活動を積極的に

展開する。

これらの事業実施にあたっては、スポーツ庁、日本スポーツ振興センター（JSC）、JSPPO、JOC、上月財団等の関係庁・機関・団体をはじめ民間の協賛各社等に対し、本協会が実施するスポーツ推進事業の重要性について、より理解を得るための働きかけを積極的に行い、活動資金の援助を強く要請する。

一方、免税募金については、関係各方面の理解と協力を得て、寄付金の募金活動を行い、本協会が実施する各種活動を推進していくための財政確立に努める。

財源の確保については、クライミングイベントや山岳スキーイベントの価値拡大を図り、スポンサー収入、サプライヤー提携、チケット収入、物販収入等の事業収益で質的向上と増収を図る。

また、山岳共済会への加入促進を積極的に図り、業務委託費の確保に努める。また、賛助会員（団体・個人）、「CLUB-ITADAKI」会員の加入促進や選手登録、各種資格認定等を積極的に進めて増収を図る。

なお、本協会の組織運営に際しては、関係者が一丸となって、コンプライアンスの徹底及び組織のガバナンス強化に努める。

○令和3年度決算概要

収入 387,984千円で前年度比 59,853千円の増、これはJOCの補助金が増えたことが大きい。但し、協賛金は153,649千円で26,236千円減少した。

協賛金は今までの1-12月から4-翌3月に変更され、レベニューシェアも1千万円弱と昨年度から2千万円ほど減っている。世界的に経済状況はもっと厳しくなることが予想される。

支出は 407,359千円で前年度比 132,951千円の増加なり、結果として公益目的事業と法人会計の合計の収支差額は19,374千円の赤字となった。このうち公益目的事業は31,472千円の赤字になった。事業が増えたこととPCR検査を徹底した為の検査費用が大きくなったことによる。

期の途中においては、資金が一時不足し、財政基盤確保資金を24,000千円使用し(理事会承認済)、さらに銀行から40,000千円を借りたが令和4年5月1日には完済した。

特定資産としては、令和4年3月31日現在財政基盤確保資金として6,000千円と国際大会開催資金として30,000千円確保した。令和4年度は支出に十分注意する必要がある。

Ⅲ. 事業内容

令和3年4月1日～令和4年3月31日までの事業について記す。

(2021年4月1日～2022年3月31日)

網掛けは JSC 補助事業。

1. 安全登山普及事業

(1) 青少年育成事業(普及委員会)

ア) 高体連登山専門部関連

①第64回全国高等学校登山大会の開催 令和3(2021)年度福井大会

8月20日(金)開会式、勝山市体育館ジオアリーナ 8月20日(金)～22日(日)登

山行動

8月23日(月)閉会式、山城は三頭山、取立山

出場校はA隊男子が46校184名、B隊女子が41校164名。

監督87名、役員204名、補助員65名。

②第11回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催

12月25日(土)～26日(日)埼玉県加須市市民体育館

イ) ジュニア登山教室

「少年少女登山教室」の開催(委託実施)

未実施の岳連(協会)への積極的な取り組みを要請している。

17件の申し込みがあり、2件はコロナ禍により中止となり15件実施した。

ウ) 「登山普及情報交換会」開催

2022年2月12日(土)を予定していたが、オミクロン感染者増のため

(コロナ禍によりに変更)中止となった。

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業(普及、総務委員会)

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

・2021年度実施各競技大会入賞者(1位～3位)表彰

・第59回全日本登山大会功労者特別表彰を予定していたが、中止となった。

・2021年度永年参与感謝状贈呈は中止となった。

・特別功労者表彰は中止となった。

・第11回日本山岳グランプリの公募と顕彰(該当者なし)

・2021年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦

日本スポーツ賞 野中 生萌

・2021年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦

榎田 靖憲(福井)、米倉 徳雄(島根)

- ・2021 年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦（該当者なし）
 - ・2023 年度叙勲及び褒章候補者の推薦（1 名推薦）
- エ）2021 年度海外登山隊奨励金の公募と選考(国際事業の項)
- オ）各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化講演会等の後援
- カ）日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

(3) 安全登山の啓発事業(普及、遭対、国際の各委員会)

普及委員会

ア) 安全登山指導者研修会（国立登山研修所他共催）の実施

- ① 東部地区（三重県） 10 月 22 日（金）～24 日（日）を予定
10 月 23 日（土）にオンライン開催 講師 3 名、受講者 70 余名
- ② 西部地区（佐賀県） 11 月 20 日（土）～22 日（月）
佐賀県立黒髪山少年自然の家
主催者スタッフ 18 名、受講生 25 名参加。

イ) 安全登山事業(国立登山研修所と共催)

- ① 高等学校等登山指導者夏山講習会
7 月 9 日（金）～11 日（日） 国立登山研修所及び室堂周辺
雨天決行 講師 主任、副主任含め 7 名 参加 6 名、スタッフ 2 名
- ② 上級登山リスクマネジメント指導者研修会
9 月 18 日（土）～19 日（日） 神戸登山研修所
講師 主任、副主任含め 5 名 参加 19 名、スタッフ 2 名
- ③ 安全登山サテライトセミナー
オンライン
宮城会場：6 月 19 日（土）～20 日（日） フォレスト仙台（宮城県教育会館）
研修会名：サテライトセミナー宮城
講師：5 名 申込者：71 名 参加者：46 名
東京会場：12 月 18 日（土）～19 日（日）（100 人規模）
国立オリンピック記念青少年総合センター
- ④ 積雪期登山基礎講習会
2022 年 2 月 11 日（金）～13 日（日）、国立登山研修所及び周辺山域

ウ) 第 59 回全日本登山大会の開催

2021 年 9 月 25 日（土）～27 日（月）の 3 日間、新潟県、苗場山・平標山等
コロナ禍により開催中止となった。

遭対委員会

ア) 山岳レスキュー講習会

- ① 西部地区（富山県・国立登山研修所） 9 月 10 日（金）～12 日（日）

コロナ禍により開催中止となった。

- ② 東部地区（群馬県・土合山の家） 1月28日（金）～30日（日）
14名（クラス1：8名、クラス2：4名、クラス3：2名）参加

イ) 研修及び研究会

- ① 遭対常任委員研修会 8月21日（土）～22日（日）は中止となった。
12月18日（土）～19日（日）

- ② 遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議 6月29日（土） Zoomにて開催。

ウ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

- ・減遭難キャンペーン「ストップ・ザ・5444」の啓発活動
- ・アニメ動画「そうよ そうなの 遭難よ！」の拡散

エ) 令和3年度全国山岳遭難対策協議会の共催（スポーツ庁他）

7月16日（金）文科省講堂

文部科学省講堂とオンライン参加のハイブリッドによる開催となった。参加者は講堂

36名、オンライン622名参加で山岳関係者は50名、うちリアルで15名参加

オ) 山岳保険加入者の事故調査（報告書作成／HP掲載）

カ) 遭難事故の調査研究

- ・遭難事故に関する調査研究（委託事業）
- ・遭難事故の科学的分析

キ) 遭難事故科学的研究・他支援

- ・IMSAR 研究助成支援（継続）

ク) 遭対委員会 年間オンライン等

ケ) 「国内旅行傷害保険包括契約」実施

国際・アルパインクライミング委員会

ア) 国際・アルパインクライミング委員全体会議兼第59回海外登山技術研究会
コロナ禍により開催中止となった。

イ) 海外登山懇談会

11月 国立オリンピック記念青少年総合センター
コロナ禍により開催中止となった。

ウ) 共催事業

ウィンター・クライマーズ・ミーティング（国内）の共催
2022年2月 悪天により中止になった。

(4) 登山指導者育成事業(指導委員会)

ア) 指導員研修会

- ① 氷雪技術研修会（A級主任検定員・コーチ2養成講習会）
5月8日（土）～9日（日） 富士山

コロナ禍により開催中止となった。

② 全国指導委員長会議

6月6日(日) オンラインにて 13時～15時50分

(指導委員会 25名)

(都道府県 36 岳連、参加者 38名)

③ 登攀技術研修会 (A級主任検定員・コーチ2養成講習会)

11月6日(土)～7日(日) (一社)埼玉県山岳・SC協会 は、コロナ禍により、

2022年3月20日(日)～21日(月・祝)に延期となった。(結果を追記)

④ 氷雪技術研修会 (A級主任検定員・コーチ2養成講習会)

2022年2月5日(土)～6日(日) 鳥取・大山 はコロナ禍により中止となった。(結果を追記)

④ 公認スポーツ指導員コーチ1・2主任検定員の養成 は、以下に変更。

登攀技術研修会 (A級及びB級主任検定員・コーチ2養成講習会)

2022年3月20日(土)～21日(月・祝) (一社)埼玉県山岳・SC協会

参加者:研修会4名、A級主任検定員11名、B級主任検定員8名、

コーチ2養成講習会4名

⑤ 夏山リーダー講師養成 年3回

⑥ 上級夏山リーダー講師養成 年1回

イ) 主任検定員養成講習会

山岳主任検定員養成講習会

2022年3月20日(日)～21日(月)に実施

ウ) 夏山リーダーUIAA視察 9月、11月の2回

コロナ禍により次年度に延期になった。

エ) 委員会等

①指導常任委員会 年間オンライン会議

②夏山リーダー分科会 年間オンライン会議

オ) 国立登山研修所事業への協力

2. スポーツライミング事業

(1) 競技会運営事業(競技委員会)

公認大会・予選会実施の推進

ア) 競技会・研修会の開催

① スポーツライミング・第7回ボルダリングユース日本選手権鳥取大会

4月24日(土)～25日(日) コロナ禍により開催延期となり、12月18日(土)～

19日(日)開催となった。 鳥取県倉吉体育文化会館 男女209名参加

ジュニア	女子	男子
1位	平野 夏海	坂本 大河
2位	工藤 花	佐野 大輝
3位	滝口 萌	平澤 鼓太郎
ユース A	女子	男子
1位	野部 七海	関口 準太
2位	小倉 紗奈	松岡 玲央
3位	竹内 亜衣	三根生 仁慈
ユース B	女子	男子
1位	永嶋 美智華	杉本 侑翼
2位	関川 愛音	藏敷 慎人
3位	長谷川 颯香	安楽 宙斗

② スポーツクライミング・第4回コンバインドジャパンカップ

6月5日(土)～6日(日) 岩手県盛岡市 岩手運動公園スポーツクライミング

競技場

- ・スピードジャパンオープン 女子7名、男子15名参加

1位	女子 河上 史佳	男子 安川潤
----	----------	--------
- ・コンバインド(ホルダリング、リード) 女子19名、男子21名参加

	女子	男子
1位	野口 啓代	檜崎 智亜
2位	野中 生萌	藤井 快
3位	渡邊 沙亜里	緒方 良行

③ スポーツクライミング第9回リードユース日本選手権

5月29日(土)～30日(日) 富山県南砺市・桜ヶ池クライミングセンター
参加選手は以下の通りである。

ユースB 女子49人、男子66人

ユースA 女子33人、男子30人

ジュニア 女子22人、男子26人

順位については以下の通りである。

ユースB	女子	男子
1位	抜井 美緒	安楽 宙斗
2位	武石 初音	小俣 史温
3位	村越 佳歩	猪鼻 碧人
ユースA	女子	男子
1位	森 奈央	上村 悠樹

2位	高尾 知那	村下 善乙
3位	小池 はな	田中 裕也
ジュニア	女子	男子
1位	平野 夏海	川又 玲瑛
2位	谷井 菜月	百合草 碧皇
3位	久米 乃ノ華	抜井 亮瑛

④ ユースフューチャーカップ

11月27日(土)～28日(日) 茨城県銚田市生涯学習館スポーツライミン

グ

センター

参加選手は以下の通り

ユースC 女子74人、男子68人
ユースD 女子63人、男子43人

順位については以下の通りである。

ユースC 女子		男子		
	ボルダリング	リード	ボルダリング	リード
1位	伊藤 悠	小田 菜摘	濱田 琉誠	戸田 稜大
2位	堀内 優里	松浦 朱希望	竹芝 勇吹	上田 悠太
3位	麦島 心花	山根 嘉穂	上田 悠太	波多野 英傳

ユースD 女子		男子		
	ボルダリング	リード	ボルダリング	リード
1位	長崎 莉央	西 見柚奈	仲田 和樹	奥畑 成
2位	西 美柚奈	長崎 莉央	河本 恒太朗	齋木 猛斗
3位	池田 心春	為則 星凜	奥畑 成池	河本 恒太朗

⑤ 第12回全国高等学校選抜スポーツライミング選手権大会

(「青少年育成事業」の項参照) 女子 86名、男子 81名参加

	女子	男子
1位	谷井 菜月	鈴木 音生
2位	青柳 未愛	関口 準太
3位	小倉 紗奈	上村 悠樹

⑥ スポーツライミング第35回リードジャパンカップ

2022年2月12日(土)～13日(日)千葉県印西市・松山下公園総合体育館

2月12日：女子 45名、男子 51名、2月13日：女子 35名 男子 26名参加

女子	男子
1位 森 秋彩	本間 大晴
2位 小武 芽生	吉田 智音
3位 谷井 菜月	藤井 快

⑦ スポーツクライミング第17回ボルダリングジャパンカップ

2022年2月5日(土)～6日(日) 四日市ドーム

2月2月5日96名、2月6日 39名参加

女子	男子
1位 倉 菜々子	檜崎 智亜
2位 野中 生萌	土肥 圭太
3位 伊藤 ふたば	藤井 快

⑦ スポーツクライミング第4回スピードジャパンカップ

2022年3月6日(日) サンガスタジアム by KYOCERA グラビティーリサー

チ

女子 22名、男子 30名参加

女子	男子
1位 河上 吏佳	大政 涼
2位 林 かりん	池田 雄大
3位 竹内 亜衣	北見 宗和

(2) 国体スポーツクライミング競技の主管(国体委員会)

以下、本国体はコロナ禍により中止となった。

五輪競技種目化に沿った国体スポーツクライミング競技の検討
ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

- ① 第76回三重国体第1回基準会議、三重県菰野町で実施。
- ② 組み合わせ抽選会(場所 JSOSビル)は中止となった。
- ③ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
ブロック大会は四国を除いて実施。
- ④ 10月1日(金)～3日(日)第76回三重国体スポーツクライミング競技は中止となった。
- ⑤ 第76回三重国体以降の開催県への指導を実施。

(3) 強化事業(強化委員会)

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

①代表 (S. A. B) 選手の選考

ウ) 代表選手の派遣

①IFSC クライミング WC

4月～11月 世界各地

②第32回夏季オリンピック大会

8月3日(火)～6日(金) 東京・青海アーバンスポーツパーク

女子銀メダル 野中 生萌、銅メダル 野口 啓代

男子4位 檜崎 智亜、予選18位 原田 海

③IFSC 世界選手権

9月16日(木)～21日(月) ロシア・モスクワ

男子ボルダリング 金 藤井 快 銀 檜崎 智亜

④IFSC 世界ユース選手権

8月21日(土)～30日(木) ロシア・ヴォロネジ

ユースB男子 杉本 翼 スピード3位

ジュニア男子 川又 玲瑛 ボルダリング2位、リード3位

ジュニア女子 久米 乃ノ華 リード1位

ユースA男子 上村 悠樹 リード1位

ユースB男子 安楽 宙斗 ホルダリング2位、リード1位

ユースB女子 抜井 美緒 リード3位

エ) 代表選手強化合宿 (海外・国内)

オ) ユース選手・指導者講習会の開催

カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者への
スポーツ障害予防啓発(医科学支援)

キ) 複合種目(リード、ボルダリング)及びスピード種目への取り組み

ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み

ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

(4) 審判・ルートセッター事業(技術委員会)

各種競技会・国体スポーツクライミング競技への支援協力 ルートセッター派遣、

ブロック別研修会講師派遣

ア) 審判・セッター会議の開催 (2月)

2月27日(日) JSOS 会議室にて

イ) 全国ルートセッター研修会 年1回のみで開催となった。

・第1回: 令和3年12月16日(木)～18日(土)

加須市民体育館

ウ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会 年数回

(5) SC コーチ養成講習会(SC 指導委員会)

日程等については登山部のコーチ養成と歩調を合わせる。

- ① SC コーチ 1,2 養成講習会 (4名 兵庫で実施)
- ② SC コーチ 3 養成講習会(補講) 関東地区 年1回
- ③ SC 主任検定員養成講習会 オンラインにて予定していたが、集合講習に変更。
東京会場 10月 9日(土) 2人合格
兵庫会場 10月 30日(土) 2人合格
- ④ SC コーチ更新研修会 年2回 (オンラインで実施)
- ⑤ SC コーチ養成用教材作成

(6) スポーツライミング医・科学事業(SC 医科学委員会)

- ア) 各種大会における救護スタッフ派遣および救護活動
- イ) 代表選手メディカルチェック事業
- ウ) 外傷・障害予防のための啓発事業
- ① 登録選手向け医科学講習会(選手スタッフ合同ミーティング) 2回
 - ② クライミング医科学講習会
- エ) 調査、研究事業
- ① 障害実態調査
 - ② 学会活動(日本臨床スポーツ医学会ほか)
- オ) JSP0 公認スポーツドクター、アスレチックトレーナー養成支援(受講希望者の推薦及び 代表者協議会への出席)

(7) ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

- ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など
- ① ドーピング検査実施(JADAに委託)
 - ② ドーピング防止講習会開催
 - ③ TUE(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援
 - ④ ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援

(8) 倫理研修会事業(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会)

AD・倫理研修会の開催(随時)

8月15日(日)、28日(土)、9月12日(日)、18日(土)、26日(日)
10月17日(日)、24日(日)、31日(日)、11月21日(日)、27日(土)、28日(日)
12月12日(日)、1月23日(土)、2月19日(土)、20日(日)、26日(土)、27日

(日)、

3月27日(日)にオンラインで行った。参加希望者はA登録し、今後の世界に向けた

大会を目指しており、受講希望者は後を絶たない。

(9) ユニバーシアード関連(全日本大学スポーツライミング協会)

JOC 主催委員会等出席

(10) 国際連盟役員獲得支援事業

スポーツ庁の委託を受けて実施する。

3. 登山関連競技会運営事業

(1) 山岳スキー、スカイ／トレラン普及・振興

① 第14回山岳スキー競技選手権大会(山岳スキー委員会)

4月3日(土)～4日(日) 長野県北安曇郡小谷村 梅池高原スキー場周辺
選手総数 56名

パーティカル(スキーを履いて登る種目)

女子

1位 高村 貴子
2位 上田 絢加
3位 滝澤 空良

男子

加藤 淳一
島 徳太郎
小川 壮太

インディビジュアル(1000-2000メートルの高低差の登り、歩き、滑降の長距離種目)

女子

1位 高村 貴子
2位 滝澤 空良
3位 上田 絢加

男子

島 徳太郎
藤川 健
加藤 淳一

② 第15回日本山岳スキー競技選手権大会(山岳スキー委員会)

2022年2月26日(土)～27日(日) 富山県黒部市宇奈月温泉街から
宇奈月スノーパーク周辺

選手総数 62名

スプリント(スキーの登り、滑降をする3-5分ほどの短距離種目)

女子

1位 滝澤 空良
2位 上田 絢加
3位 古田 紗恵子

男子

島 徳太郎
平林 安里
藤川 健

インディビジュアル(1000-2000メートルの高低差の登り、歩き、滑降の長距離種目)

	女子	男子
1位	滝澤 空良	島 徳太郎
2位	上田 絢加	藤川 健
3位	堀部 倫子	小寺 教夫

- ③ World Cup Val Martello 大会 3月17日(木)～21日(月)
選手1名派遣、JMSCA関係者3名視察
- ④ (一財)日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、
(一社)日本スカイランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

4. 登山研究調査事業

(1) 国際交流事業(国際・アルパインクライミング委員会)

ア) 国際交流

- ①訪日する外国登山代表団との交流

イ) 派遣他

- ①BMC International Climbers Meet への派遣(夏)

英国 ノース・ウエールズ 実施せず、今後は中止となった。

- ②UIAA アイスクライミング選手権派遣支援

(2) 登山医・科学支援事業(登山部医科学委員会)

ア) UIAA MedCom

- ①UIAA MedCom Meeting への出席

イ) 支援している医科学的諸事業

- ① JSMM 国際認定山岳医研修会
- ② NPO 富士山測候所を活用する会
- ③ JSMM 登山者検診ネットワーク
- ④ 夏山リーダー制度、インターハイ支援

ウ) 調査研究事業

- ① 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

5. 自然保護研究調査事業

(1) 山岳環境保全事業(自然保護委員会)

ア) 研修及び研究会

- ① 令和3年度自然保護委員総会(第44回山岳自然の集い)
コロナ禍により開催中止となった。
- ② 山岳自然保護環境研究会パート1

コロナ禍により開催中止となった。

③ 第 12 回自然保護指導員研修会

2022 年 1 月 29 日（土）国立オリンピック記念青少年総合センター

イ) 自然保護の啓発

①自然保護指導員制度の推進

②自然保護広報資料の出版

③全国環境月間(6 月)の実施

④環境省・自然公園指導員制度への協力

・自然公園指導員の推薦

⑤山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

・山岳団体自然環境連絡会への参加

・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進

・各種環境保護事業の後援と派遣

⑥日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

⑦全国山岳自然保護関係活動の集約とHP 広報

6. 共益事業

(1) 広報等

ア) 『登山月報』 毎月 15 日定期発行 第 625 号 (4 月号) ～第 636 号 (3 月号)

イ) HP のタイムリーな更新 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

① HP 新規アップ

② 英文コーナーの新設

(2) 会議等

ア) 総会 6 月 20 日(日)

イ) 理事会 原則として毎月第二木曜日

6 月は総会の 15 日以上前の日

ウ) 全国理事長会議 2022 年 2 月 13 日 (日)

エ) 全国参与会 9 月 25 日 (土) 新潟県 (第 59 回全日本登山大会開催時)

コロナ禍により開催中止となった。

オ) 常務理事会 原則として毎月第二木曜日

カ) 委員長会議

キ) 常任委員会 毎月 1 回以上開催

ク) 事務局会議 (随時)

ケ) 山岳 4 団体懇談会 2022 年 3 月 11 日 (金) JSOS 会議室

ハイブリッド型式で、総勢 23 名 (日本山岳会 4 名、日本勤労者山岳連盟 6 名、日本

山岳ガイド協会 5 名、JMSCA 8 名) で実施。

コ) (一財)全国山の日協議会 (随時)

- ・評議員会・理事会・運営委員会への出席
- ・第5回「山の日」記念全国大会 8月11日(火)大分大会

サ) 国際会議

- ① 国際山岳連盟 (UIAA) 総会 10月23日(土)~24日(日) オンラインにて開催された。
- ② アジア山岳連盟 (UAAA) 理事会 コロナ禍により開催中止となった。
- ③ アジア山岳連盟 (UAAA) 総会 コロナ禍により開催中止となった。
- ④ 国際山岳連盟登山部会 マケドニアで開催 欠席
- ⑤ 国際スポーツクライミング連盟 (IFSC) 総会
2022年3月18日(金)~19日(土) ソルトレイクシティにて開催 3名出席
- ⑥ 国際山岳スキー連盟 (ISMF) 総会 9月25日(土) オンラインにて開催された。

た。

(3) 総務等

- ア) 役員改選 6月20日(日) 令和3年度定時総会 オンラインにて開催した。
- イ) 令和3年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行
- ウ) JMSCA 東京2020大会表彰式 選手、スタッフ、関係者を表彰
11月5日(金) アルカディア市ヶ谷
- エ) 2022年・創立60周年記念新春懇談会、2021シーズン JMSCA 表彰式
2022年1月15日(土) アルカディア市ヶ谷
- ウ) 理事会、総会等の議事録の作成
- エ) 山岳保険のPR (山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ各社他)
- オ) 組織運営の円滑化のため、事務局体制の強化を行う。
- カ) JMSCA 会員のデータベース化の整備

(4) 財政等

ア) 財源の確保

- ① JMSCA "ITADAKI" 会員の加入促進
- ② 山岳共済会々員の加入促進
- ③ 賛助会員 (個人・団体) の加入促進
- ④ ロイヤリティー収入源の具体策を検討
 - ・スポーツクライミングの安全確保を前提とした施設・用具等の安全基準の検討

討

イ) 外部資金の導入

- ① グローバル・パートナーの獲得
- ② 寄附金の獲得
 - 税額控除を活用して推進する

- ウ) 常務理事会において毎月の収支報告
- エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理
- オ) 山岳共済会（事務センター）の運営管理・山岳共済会会計
- カ) 監事監査 期末監査：5月31日(月)～6月1日(火)
中間監査：11月1日(月)
- キ) 中間決算と補正予算について 11月
- ク) 2022年度予算案の作成 2022年1月